

Newsletter from the Principal's Desk

自らの賜物を 最大限に活かし 拓かれた未来へ

No. 22

Tuesday, November 4, 2025

函館市杉並町23-11

遺愛女子中学校高等学校

心に響いた修養会でした！

10月28日から29日にかけて第73回全校修養会が開催されました。今回は、熊本市にあります医療法人聖粒会慈恵病院新生児相談室から、室長の蓮田真琴先生と、相談員を務めておられる荻原きよみ先生をお迎えしました。

蓮田真琴先生は、熊本市の医療法人聖粒会 慈恵病院にお勤めで、長年にわたり産婦人科の現場で母子医療に携わってこられた方です。蓮田先生のご主人が病院長の蓮田健先生で、そのお父さまの蓮田太二先生が2007年に日本で初めて「このとりのゆりかご」をはじめられた方です。「このとりのゆりかご」、いわゆる「赤ちゃんポスト」は、事情があって子どもを育てることができないお母さんが、匿名のまま赤ちゃんを託すことができる病院のことです。その制度を支えておられるのが、蓮田先生をはじめとするスタッフの方々です。

荻原きよみ先生は、同じく慈恵病院にお勤めで、新生児相談室、保健師として、また養護教諭として、長年「このとりのゆりかご」の運営に深く関わってこられました。お母さんたちが赤ちゃんを託すまでには、さまざまな葛藤や事情があります。荻原先生は、そうした方々に寄り添い、心の声に耳を傾け、これからの人生を共に考える支援をされています。

この修養会を通じて、このとりのゆりかごという取り組みは、単なる制度や施設ではなく、苦しみや孤独の中にある人に「あなたは一人ではない」と伝える、希望のしるしなのだと思います。いのちは、誰かが誰かを思うところから始まるのだと、あらためて実感しました。けれども現実には、社会の中にあるさまざまな矛盾や制度の不備が、その思いをかき消してしまうことがあることも知りました。お話の中で、日本の法律や行政の仕組みは、まだまだこの現実を追いついていないとうかがいました。その「盲点」となっているところに、誰よりも先に手を伸ばし、苦しむ人に寄り添っておられるのが、慈恵病院の皆さまであることを、今回改めて心から感じました。

これは、まさに「信仰・犠牲・奉仕」という私たちの建学の精神にも重なるものです。見えないところで、誰かのために祈り、行動する——その姿こそが、いのちをつなぎ、社会を支えていく原点なのだと思います。このような学びのときを生徒たちに与えてくださいましたこと、そして函館まで来てくださり、何よりも「いのちの現場」からの真実を語ってくださったことに感謝したいと思います。



遺愛生は秋も大活躍です！

第78回 全日本バレーボール高校選手権大会 函館支部予選会

【決勝リーグ】

大妻女子 0-2 負け
函館西 1-2 負け
函館中部 1-2 負け

結果は残念ながら、4位となりました。全道大会の権利も逃してしまうという結果になりましたが、12月にあるオープン大会に向けて新たに頑張りたいと思います。応援ありがとうございました。

K2A 笹谷理桜 村上奈穂 K2C 松浦心優 K2G 表咲千栴 佐藤 妃彩 萬矢 倖乃

K2H 坪谷柚樹 K2J久保 有那

また、閉会式の中で行われた、高体連の優秀選手に遺愛から3名が選ばれました。

K3B 小室那音 宮本陽彩衣 K3J 藤田真維

第17回IBC高校生英語エッセイコンテスト

団体部門 奨励賞 遺愛女子高等学校

個人での受賞とはなりませんでした。高校2年生一貫クラス、高校3年生特進混合クラスの生徒たちが参加してくれました。

第35回「私たちの身のまわりの環境地図作品展」

例年、中学1年生を中心に参加している、「私たちの身のまわりの環境地図作品展」において、今年度、以下の2名が「優良賞」として入賞を果たしました。作品を送付する前に撮影した写真も添付いたしました。合わせてご覧ください。作品はウェブサイトで公開される予定です。



山崎陽日さん
函館市ヒグママップ

優良賞

中学3年A組 角田 栞 さん：「ドキュメント函館大火～町と私達に与えた影響と変化～」

中学1年A組 山崎 陽日 さん：「函館市周辺ヒグママップ」



新体操部
全道の舞台で大健闘



角田栞さん
「ドキュメント函館大火」

第40回北海道高等学校新体操新人大大会兼令和7年度全国高等学校新体操選抜大会北海道予選会

個人一部 第3位 K2G 白川ゆなほ 第6位 K2I 山田恋白

第28回全国高校生設計アイデアコンテスト

長崎総合科学大学 建築学コースで募集しているものです。

テーマは「ペンギン水族館前のバス停」でした。

K3(2) 植村 友香 入賞(副賞：3千円図書券)

公文和子先生来校！

10月24日(金)の⑥時間目に、公文和子先生が来校し、「神様の目でみるアイデンティティ〜ケニアの障がいのある子どもたちとの歩み〜」と題して講演をしてくださいました。

「あなたは誰？」と聞かれたら何と答えますか？

自分のいのちに意味を感じますか？

というふたつの問いかけで始まった講演会は、「ケニアという国の紹介」「私がケニアの障がい児と生きる理由」「ケニアの障がいのある子どもたちとシロアムの園」「私が出会った子どもたちの物語」「私たちのいのちと存在の意味」…といった内容で進められました。どのお話もたいへん印象的でした。

先生のいくつかの御経験、幼稚園で「転園」せざるを得なくなった時にお世話になった「ふみ先生」との出会い、中学高校時代に打ち込んだバスケットの部活動の経験、大学時代バングラデシュを訪れたこと、その後医師になって困難を生きる子どもたちと出会ったこと・・・それらすべてのものがもとになって今の私が作られている。だから、みなさんが今何気なく取り組んでいるひとつひとつのこと、何気なく出会っているひとりひとりの人たちが、みなさんの「あなたは誰？」の方向性を決めて行っているのです。

前半ではこのようなことが語られました。今、遺愛で学んでいるひとつひとつの経験、出会っているひとりひとりを大切に、がんばっていきましょう。

C2A 赤澤紗希さんの感想

私は公文和子さんの講演を聞いて日本では当たり前のように受けられる教育などがケニアなどの発展途上国ではまだ十分に整っていないだけで障がいがあるというだけで学校に通うことができなかつたり、通えたとしても酷い扱いをされたりしてしまっている人たちがいるということを知り、驚きました。そして私が今当たり前のように生活できていることに感謝しないといけないと改めて感じさせられました。

公文さんが最後に私たちに見せてくださったシロアムの園の子たちが作った花を見て公文さんが言っていた通り、確かに花びらの一枚一枚は全く違っていても合わさればとても綺麗な花になっていてとても感動しました。今日は公文さんの貴重なお話が聞けてとても良かったです。

K3C 臼井桃杏さんの感想

今回の講演会を通して障がいを持つ子の治療やリハビリだけでなくその子自身の喜びや家族との幸せを分かち合えるようにすることが大切だということを学びました。ケニアだけでなく日本そして世界をみてもまだまだ障がいを持つ人に対する差別や偏見はなくなっておらずそこをいかに少なくさせるかが課題だなと感じました。障がいを持つ子の医療的なケアだけでなくその子自身の社会的な地位を確立させてあげられるよう多くの人が障がいに対する偏見を少なくできるような活動をしていく必要もあるなと思いました。障がいの有無なしに一人ひとりが独立して幸せに暮らして行けるような社会づくりが今後求められているのだなと考えさせられました。私たちも今後意図せず人を差別しない、偏見を持たないようにまた助け合って生きていくべきだなと感じました。講演会を通して本当に様々なことを感じ学ぶことが出来て良かったなと思います。



今年度最後の教育実習の先生です

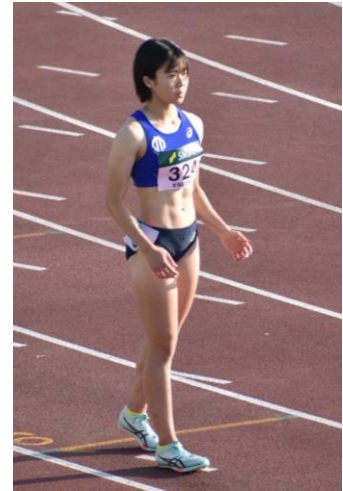
今年は教生先生の多い年でした。学校の先生といえば、最近はおっぱら「忙しく大変なお仕事」として報道されることが多く、目指す若者が減少する傾向にあるのですが、遺愛の卒業生で教師を目指す人が多くいるのは、大変喜ばしく、心強く思われます。

夏に6人、秋に3人の先生方が実習の学びを終えて大学に戻って行かれました。さらに現在、佐藤志保里先生が教育実習中です。

佐藤先生は遺愛在学中から陸上部のエーススプリンターとして活躍され、北海道の代表としてインターハイにも出場しています。大学でも全日本のトップ選手として競技生活をつづけています。夏場は各種大会への出場で忙しく、陸上競技のシーズンが一区切りとなる、この時期での実習となりました。特に運動部のみなさん、陸上部のみなさん、ぜひ佐藤先生から多くのことを学び取っていただければと思います。

私は大学で陸上競技に取り組んでおり、大会がすべて終わる時期に教育実習をさせていただいています。学校のご配慮のおかげで、10月3日から滋賀県で行われた国民スポーツ大会に北海道代表として出場し、4×100mリレーで優勝することができました。

緊張と不安の中で迎えた遺愛での実習でしたが、担当しているK2Aクラスの皆さんをはじめ、素直で元気な生徒が多く、毎日の授業がとても楽しく充実しています。残りの実習期間も、生徒の皆さんとたくさん関わりながら、先生である前に一人の人として尊敬されるような教師を目指し、より良い授業づくりに取り組んでいきたいと思っています。受け入れ期間外にもかかわらず、温かく迎えてくださった先生方や生徒の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



～イベント等案内～

オンライン「車座」フォーラム～京都大学を知ろう！ 学生・研究者と語ろう！～		
日程	11月30日(日)9:30～12:30 zoom開催	申込締切:11月16日(日)17:00迄
定員	女子高校生100名程度 保護者50名程度 先着順	
内容	京都大学を目指す女子高校生のみなさん対象。京都大学がどんなところなのか、学部をどうして選んだのか、大学での学生生活や学びについて…などの疑問に現役京大生や研究者がお答えします。兄弟生徒の交流もあります。	
第8回持続可能な世界・北海道 高校生コンテスト		
募集作品	発表動画＋資料	参加対象:北海道の高校生
発表交流	2026年1月25日(日)	応募締切:12月25日(木)
内容	日ごろの活動を持ち寄り(再利用可)、参加者同士が互いに学び合う場です。持続可能な世界・地域やエージェンシー(社会を変える力)の視点から、①「総合的な探究の時間」の授業や②部活動で行った探究…などを紹介・発表して交流します。	